

翌 檜 新聞



志 寛 錬

第4号
2020.5.29
第74代
伊敷中学生徒会



新たな生活に期待

241名が伊敷中に入学

入学式

4月6日(月)、第74回入学式がありました。新入生241名が伊敷中の一員となりました。



入学式を終え、教室に移動する新入生

一年三組の吉福皓くんは「入学式を終えて、初めは中学生になったという実感がなかったが、少しずつ中学生になったという実感が湧いてきました。中学生の自覚をもっていきたい。また、新入生みんなで協力し合い、笑顔あふれる学年にしていきたい。」と話していました。また、入学式を終え、始まった中学校生活について、一年五組の亀甲涼花さんは、「中学校の決まりを覚えるのが大

変だと感じるが、早く覚えて、先輩方のように行動できるとなりたい。」と意気込みを述べていました。一年生学年主任の川内孝先生は、「この学年は黄学年。黄色のひまわりの花のように元気でたくましい学年になってほしいです。そして、自らの考えと行動で未来を切り拓いていってください。」とおっしゃっていました。

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、今年の入学式は、在校生は参加することができませんでしたが、在校生は新入生が入学してくることを楽しみにしていました。これから、全校生徒が協力して、良い学校を創っていきましょう。(町田亜未・堀切勇希)

誰かのために私たちが何を

現在、世界では新型コロナウイルスが猛威をふるっています。新型コロナウィルスが武漢で確認されたばかりの頃、私たち生徒会は自分たちに何かできることはないかと考えました。そして、伊敷中のみなさんにも協力をもらい、募金活動を行ったのが「中国救つぞ！」

大作戦」です。

校内での募金はもちろん、休日には、校区内のスーパーへ出掛け、募金活動を行いました。募金活動を行った二年四組の堀切勇希くんは、「初めは、募金してもらえないか不安だったけど、たくさんの方々に募金していただいて、心が温かくなった。

困っている人がいたら、助けることができる大人になりたいと思った。」と話していました。みなさんの御協力のおかげで最終的に7万4899円を集めることができました。集まった募金は、日本でも感染が広がっていることを考え、半分は中国へ、半分は日本へ募金することとしました。



募金受け渡しの様子

中国への募金は、生徒会役員が作成したメッセージ

FACE

河瀬雅之 校長先生



今回のFACEは河瀬雅之校長先生です。13年前の伊敷中で教鞭をとっていた河瀬校長先生。伊敷中への思い、そして、先生自身の中学時代について聞いてみました。

Q1 伊敷中の第一印象は?

A1 人が変わったも、伝統や良さが受け継がれていて改めてよい学校だなと思いました。

Q2 先生の中学時代を教えてください。

A2 生徒会の一員として生徒会運営について、いろいろな立場や考えをもつ人がいることを受け入れ、人に優しくできる人であってほしいと思います。

Q3 目指す伊敷中生の姿は?

A3 ① 学力向上
② 夢の実現
③ 人に優しく



福岡総領事館からいただいた感謝状

状態いただきました。

また、私たちの活動を知り、新潟からステッカーを送ってくださいました。誰かのために何かできないかという思いが様々な人たちとつながりました。私たちにできることは小さいことですが、新しい何かを創造するためには小さな一歩が大事だと思う経験となりました。(東遼太郎)

生徒会の窓

第74代生徒会のスローガンは「We love 伊敷」です。スローガンに込められた思いを一年生のみなさんにお話する機会がなかなかないので、紙面で伝えたいと思います。

「We love 伊敷」

このスローガンには、伊敷中生みんなが伊敷中のことを好きになってほしい、みんなに愛される伊敷中にしたいという思いが込められています。そのためにも、相手はこんなことを言われたらどう思うだろうと「想像」したら、どんな活動をしたら学校がよくなるかと「想

像」したりすることが必要です。そして、一人一人が「想像」したことをみんなが知恵を出し合いながら「創造」することが必要です。だから、「想像して創造する」というサブタイトルを付けました。一人一人がよりよい伊敷中を「想像」し、みんながよりよい伊敷中を「創造」することが、みんなに愛される伊敷中につながると思っています。

みなさんは伊敷中のことが好きですか。伊敷中の生活が好きですか。伊敷中の生活を好きと言えるものにするのは他人ではなく、自分自身です。人に何かをしてもらうことを期待するのではなく、自分が何ができるか考えていきましょう。(中島知希)

伊敷中専門部、これだけは!

伊敷中学校には八つの専門部があります。それぞれの専門部の活動が伊敷中の充実した学校生活につながっています。何のためにそれぞれの活動をしているのかぜひ考えてみてください。

【生活部】

門礼は、家庭生活と学校生活の切り替えをするために、学校に対して感謝の気持ちを表すためにしています。門礼のポイント① 正門で立ち止まる
② 三秒以上礼をする
③ 校訓「志・寛・錬」を目で追う

止まって門礼

「門礼」は三大伝統の一つ。正しく門礼を行い、伊敷中の伝統を引き継いでいきたいと思います。



丁寧にお辞儀して礼の心を表そう

【庶務部】

カバン棚が整っているクラスは、気持ちよく感じます。教室の後方を大きくしめるカバン棚。次のルール

カバン棚を守ろう

カバン棚を確認しましょう。○ 正カバンの持ち手は右。補助カバンの持ち手は左。
○ 補助カバンのひもは外す。
○ カバンのチャックを最後までしめる。中が見えないようにする。
○ 教科書は直接棚の中に入れておかない。カバンの中か個人BOXを活用する。



整ったカバン棚を目指しましょう!

美化部も美しく

美化部は学校の環境美化をよりよくするための活動をしています。みなさんに意識してほしいことは作業用具の整頓です。他の部の活動でも「そろえる」を意識したものが多くあります。美化部に関する活動の中「そろえる」は作業用具

そろえて綺麗な靴と傘

「靴・傘係」の人は毎日の自分のクラスの靴や傘がどうなっているか確認してください。ただ、係の人が整えるのではなく、一人一人が意識して整えるようにしよう。また、傘は持ち手をそろえます。一人一人の「靴・傘係」の人は毎日の自分のクラスの靴や傘がどうなっているか確認してください。ただ、係の人が整えるのではなく、一人一人が意識して整えるようにしよう。



整った雑巾は廊下の環境を整えます

【図書部】

図書部の活動の一つに「靴・傘をそろえる」というものがあります。靴箱を見てみると、運動靴や上履きが並べられていない人もいます。綺麗に並んだ靴は心がすっきりしませんか。右下の写真のようにかかとをそろえて並べるようにしよう。



シューズをそろえて持ち手が揃うようにしよう。

【体育部】

伊敷中では昼休みは外で活動することになっていきます。外で活動することで体力作りをすることが目的です。給食終了後、15分以内に着替えを済ませるといいこと。外では帽子をかぶるといいことがルールです。体育部では、皆さんが楽しく安全に過ごせるよう校舎や校庭を見回っています。ルールを守り、安全に気を付けて活動するようお願いします。

昼休みは元気よく!



昼休みは鹿工高からのベンチも大活躍

【保健部】

みなさんは、4時間目終了後、8分以内に着席していますか。保健部では、

素早い着席! 減らそう残食!

「4時間目終了後8分以内の着席完了」を目標としています。この目標は、給食の準備を早くして、食べる時間を確保するためのものです。そうすることで、食べる時間が確保でき、残食が少なくなります。世界では満足に食事をできない人たちがいます。また、給食技師の方々はいつも一生懸命に給食を作ってください。給食を作るときは、給食をくみ取りながら、給食をいただくことができればいいなと思います。給食当番が素早く給食の準備ができるかどうかは、待っている人の行動にかかっています。そして、その行動が残食にもつながってきます。自分にできることをしていきましょう。



給食当番の通った後を拭き掃除してくれる人もいます

【広報部】

みなさんはどのような態度で放送を聴いているでしょうか。



足は床に付け、腰骨を立てよう

正しい態度で放送を聴こう

「静かにして」という呼び掛けがなくても静かにできる伊敷中生でありたいです。また、自分に関係ない連絡の放送だったとしても、必要としている人がいます。周りの人のために静かにするという思いやりの気持ちも大事にしていきましょう。また、学年放送等では立腰をしています。立腰も落ち着いて放送を聴く環境を創るためのものです。自然とできるように意識していきましょう。

【学習部】

みなさんは、二分前着席、一分前黙想をすることができていますか。今の現状と

意識しよう! 二着黙想!

しては、学習部が呼び掛けをしてから着席するという人も多いと思います。二着黙想は、休み時間と授業の切り替えをするための時間です。落ち着いた授業をするためには、この切り替えの時間をどう過ごすかが大事です。係に呼び掛けられてから行動するのはなく、自分の意志で行動できる人が増えると、授業も落ち着いた態度で受けることができるようになると思います。また、着席の時間になってから準備をする人も時々見られます。準備をしてから着席です。授業の雰囲気は、クラス全員で創るものです。自分たちで良い学習環境を創っていきましょう。



黙想の間も立腰を意識しよう

それぞれの専門部の活動を確認できましたか。自分の行動はどんなことにつながっているのかを「想像」しながら、充実した生活を「創造」していきましょう。